

# 稲作情報

Vol. 6 平成 26 年 7 月 22 日



宮城県米づくり推進気仙沼地方本部

問い合わせ先：本吉農業改良普及センター

TEL：0226-29-6044

ホームページ：<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/motoyosinoukai.html>

**出穂期は平年より早い8月5日頃の見込み、いもち病とカメムシ類に注意を！**

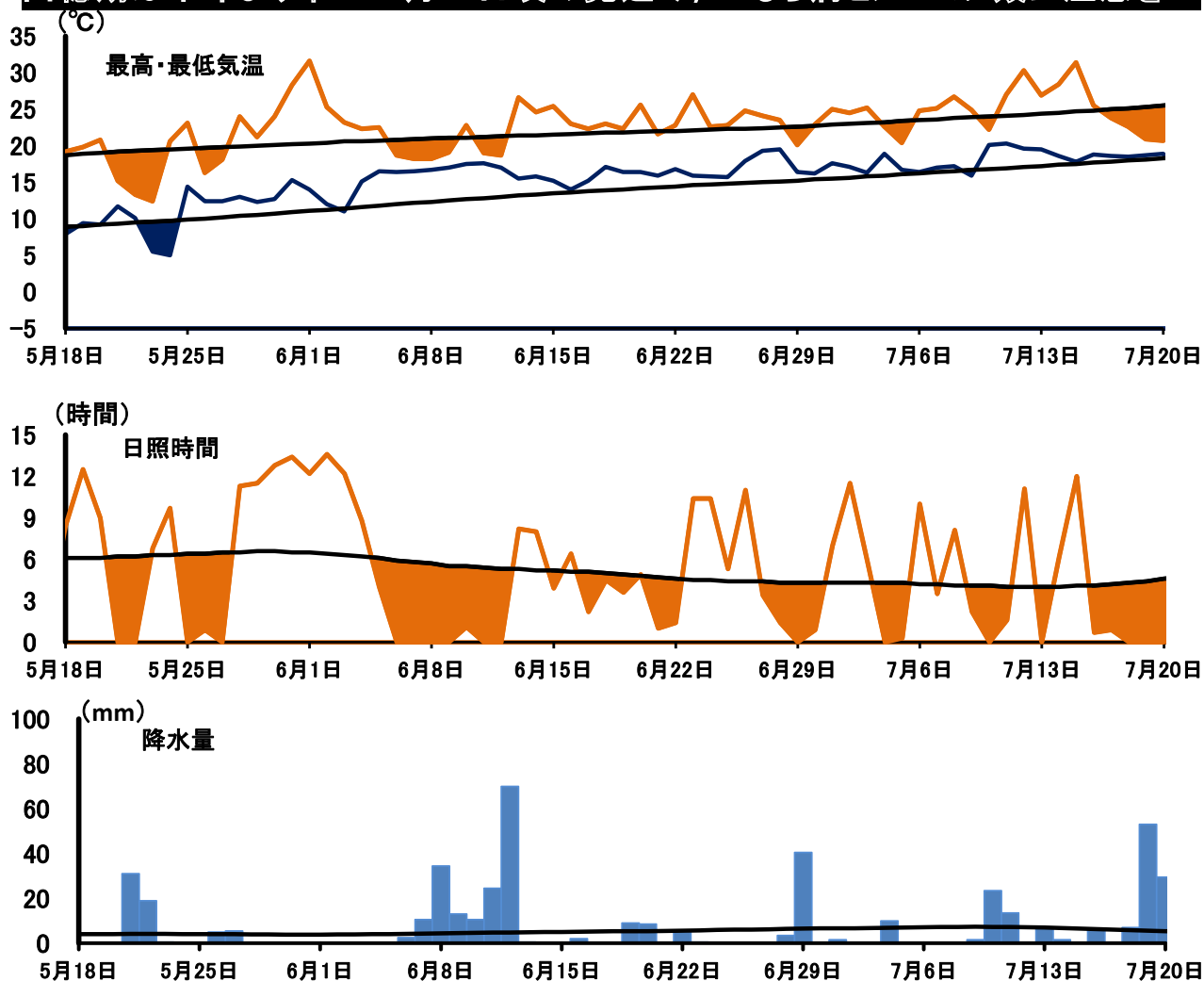


図1 気象経過図(気仙沼アメダス:5/18~7/20)

## 気象経過

## 7月4半旬は、低温・少照・多雨

7月4半旬は、最高気温が平年を大きく下回りましたが、最低気温は平年より高かったことから、低温障害の心配のある平均気温 20℃以下とはなりません。また、4半旬は、日照時間も平年を大きく下回り、降水量は平年を大きく上回りました。

表1 半旬別気象表(気仙沼アメダス)

	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	H26	平年	差	H26	平年	差	H26	平年	差	H26	平年	比	H26	平年	比
6月5半旬	19.1	16.8	2.2	22.9	21.4	1.5	16.2	13.2	3.1	20.1	26.4	76%	95.0	24.4	389%
6月6半旬	18.6	17.4	1.2	23.2	21.8	1.5	15.8	13.9	1.9	21.6	24.9	87%	19.5	26.3	74%
7月1半旬	20.3	19.0	1.2	23.5	23.1	0.4	17.3	15.8	1.5	24.6	21.5	114%	11.5	34.1	34%
7月2半旬	20.6	19.6	0.9	24.7	23.8	1.0	17.3	16.5	0.8	23.8	20.7	115%	25.0	36.0	69%
7月3半旬	23.0	20.3	2.6	28.8	24.4	4.4	19.2	17.2	1.9	30.9	20.1	154%	22.0	34.6	64%
7月4半旬	20.5	21.0	-0.6	22.7	25.1	-2.4	18.7	18.0	0.7	1.6	21.6	7%	96.0	29.1	330%

## 生育状況

## 出穂期は、平年より早まると推定される

- ・7月に入ってから高温で経過したため、生育は平年より進んでいる状況です。
- ・気仙沼市の生育調査ほ(ひとめぼれ)では、草丈は平年並(平年比103%)、茎数は多い(平年比119%)、葉数は平年よりやや少なく(平年差-0.5枚)なっています。
- ・南三陸町の生育調査ほ(ササニシキ)では、草丈は平年並(平年比99%)、茎数は少ない(平年比85%)、葉数は少なく(平年差-0.9枚)なっています。
- ・両生育調査ほともに幼穂長は12~26mm程度で、出穂18日前、出穂期は8月5日と推定され、平年よりも早まりそうです。
- ・管内の平年出穂期間(※)(5カ年平均)は8月7日~14日です。現時点では、本年は平年より早まると推定されます。  
(※出穂期間とは、出穂期に達した水田面積が5%になった日から95%になった日までを示します。)

表2 生育調査結果

調査地点名 品種名 (田植日)		7月10日調査				7月20日調査				幼穂形成 始期
		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 SPAD値	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 SPAD値	
生育調査ほ	平成26年	59.2	717	10.2	39.3	69.7	704	10.9	37.0	7月9日
	前年	57.6	573	10.4	35.1	65.3	521	11.3	32.7	7月13日
	平年	57.4	653	10.3	38.0	67.4	591	11.4	32.2	7月12日
気仙沼市本吉 ひとめぼれ (5月13日)	前年比(差)	103%	125%	-0.2	112	107%	135%	-0.4	113	-4
	平年比(差)	103%	110%	-0.1	103	103%	119%	-0.5	115	-3
	生育調査ほ	平成26年	56.0	561	10.2	37.1	64.7	437	11.1	34.2
南三陸町入谷 ササニシキ (5月16日)	前年	58.8	585	10.5	33.8	69.0	551	11.5	32.7	7月12日
	平年	54.0	577	10.9	35.0	65.1	514	12.0	30.4	7月12日
	前年比(差)	95%	96%	-0.3	110	94%	79%	-0.4	105	-3
	平年比(差)	104%	97%	-0.7	106	99%	85%	-0.9	113	-3

注：平年値は過去5カ年(平21~25年)の平均値

## 今後の管理

## 低温時には深水管理を！

### ◎出穂期までの水管理

- 幼穂形成期から出穂・開花期にかけては水を多く必要とします。この頃に水分が不足すると、幼穂の発育や開花・受精が妨げられ、減収する恐れがあります。出穂期までは間断かんがいを励行し、水を切らさないように管理して下さい。
- 根腐れが発生しやすいほ場や、倒伏の危険のあるほ場では飽水管理(田面の足跡に水がなくなったら水を入れ、土が十分に湿ったら排水する)を行うと、根の健全化と茎の充実に効果があります。
- 適期落水の適期は、千粒重の80%以上が確保される出穂後25日以降です。刈取作業をしやすくするため落水時期を早める傾向がみられますが、登熟期の水分不足は未熟粒の増加や千粒重の低下など品質・収量を大きく低下させます。さらに、早期落水は被害粒の発生を増大させ、玄米の品質を著しく低下させるので適期落水に努めましょう。なお、落水後も好天が続き田面が乾きすぎるときは、走り水程度のかん水を行いましょう。

### ※出穂後高温時の水管理

- 出穂後に最高気温や夜温が高い状態が続くと、稲の消耗による登熟不良や白未熟粒の発生による品質低下が懸念されます。これを軽減するため、最高気温が30℃以上、夜温が25℃以上になる場合には、「走り水等により常に土壌を湿った状態に保つ水管理」を行いましょう。

### ◎追肥の目安

## 追肥で白未熟粒防止を！

- 大部分のほ場で幼穂形成期になっており追肥を行う時期ですが、追肥は生育や葉色等をみながら行って下さい。追肥の判断に迷ったときは、普及センターまでご相談ください。
- 追肥後、一時的に稲体窒素濃度が高くなると、いもち病抵抗力が弱まるので、必ず防除を実施しましょう。

○近年、白未熟粒の発生による品質低下が問題になっています。白未熟粒は、稲の栄養状態が悪く、穂揃期の葉色が淡い場合に多発することが報告されています。適切な追肥を行い、品質向上を図りましょう。

## ◎病虫害防除

### 《いもち病》

**すでに発病が確認されています！ほ場を見回り、早期発見を！**

病虫害防除所の葉いもち好適感染日推定システム(BLASTAM)によると、気仙沼アメダスデータで7月 10・11 日に、志津川アメダスデータでは7月 5・11・17 日に好適感染条件が観測されていることから、今後葉いもちの発病がみられる可能性があります。

#### 1. 予防防除(発生前)

##### 1) ほ場の見回り

上位葉に付いた葉いもちの病斑は、穂いもちの発生源となるので、常にほ場の見回りを心がけ、いもち病斑の早期発見に努めてください。

##### 2) 予防薬剤による防除

###### ア. 粒剤による防除

コラトップ粒剤 5 等、予防粒剤による穂いもち防除は出穂 20～10 日前に行いましょう。水面施用剤の散布時は、水深を3cm以上にし、散布後少なくとも3～4日は湛水状態を保ってください。

###### イ. 茎葉散布剤による防除

茎葉散布剤で予防防除を行う場合は、出穂直前、穂揃期およびその7～10日後の3回実施してください。

#### 2. 治療防除(発生後)

○いもち病が認められた場合は、すでに周辺の株に感染している可能性がありますので、予防粒剤施用の有無に関わらず、周辺のほ場も含めて直ちに薬剤散布を実施してください。

○発生の多いときは、散布間隔を詰めたり、雨の合間でも散布を行うなど病気の進展を食い止めましょう。その際に、前回とは違う系統の薬剤を使用すると効果的です。

○共同防除実施地域内であっても、共同防除ができないほ場では、補完防除を行ってください。



「このような病斑がでていませんか？」

**葉いもち防除は、予防防除と発病の早期発見が大事です」**

## 《斑点米カメムシ類》

### 斑点米カメムシ類多発生！草刈りは7月25日までに終わらせましょう！

病虫害防除所の発生予察情報によると、斑点米カメムシ類の第1世代成虫発生盛期は平年よりやや早い7月第4半旬(7月16～20日)で、発生量は「多い」と予察されています。

また、水田への侵入始期も平年よりやや早い8月第1半旬(8月1～5日)と予察されています。気仙沼市では、近年カメムシの発生が増加しています。7月上旬に実施したすくい取り調査の結果では、水田周辺の雑草地で、成虫や幼虫を含め多数の斑点米カメムシ類が確認されました。

適正な防除で斑点米による品質低下を防ぎましょう。

### 1. 耕種的防除

#### 1) 水田内雑草

水田内のイヌホタルイやヒエ等の雑草は、カメムシ類の水田への侵入および斑点米被害を助長するので、確実に除草してください。

#### 2) 水田周辺の雑草

雑草地、農道、畦畔等の雑草を刈り取って、カメムシ類のエサとなる穂をつけさせないようにしましょう。水稻の出穂期前後の草刈りはカメムシ類を水田に追い込むことから、遅くとも出穂10日前までに実施してください。

### 2. 薬剤防除

- 薬剤防除は、穂揃期(出穂期から3日後)とその7～10日後の2回実施が基本です。茎葉散布剤を使用する場合は、畦畔も含め防除してください。
- 2回目に使う薬剤は、1回目と異なる分類の薬剤を使うと効果的です。

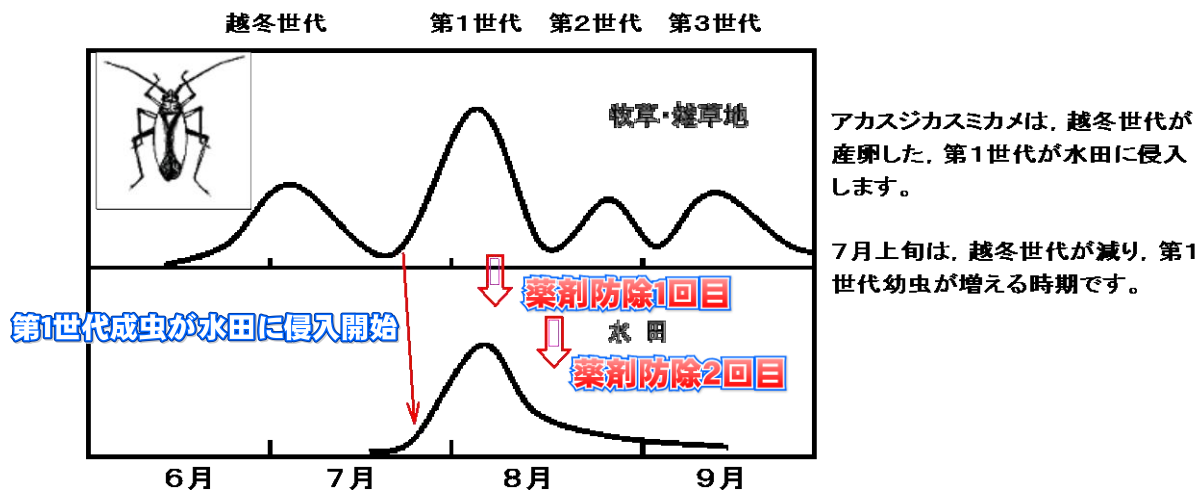


図2 水田および周辺牧草地におけるアカスジカスミカメ成虫の発生活消長

### 斑点米カメムシ類防除適期の「穂揃期」っていつ頃？



- 左の写真のように穂の先端が止葉葉鞘から出た状態の茎が、水田全体の5～10%程度の時期を「出穂始」40～50%程度の時期を「出穂期」80～90%程度の時期を「穂揃期」といいます。
- 「出穂期」から「穂揃期」までは天候にもよりますが、2～3日かかります。
- 一般的には、穂が完全に伸びきった時期を「穂揃期」と呼んでいることが多いようですが、正しい時期を理解して適期防除を心がけてください。